いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

岡山県の地震
令和8年(2026年)10月

目　次

○岡山県及びその周辺の地震活動(10月)
　震央分布図及び断面図 … 1
　概 況 … 1
　岡山県において震度1以上を観測した地震の表 … 該当なし
　岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図 … 該当なし
○地震防災メモ　No.250
　昭和南海地震から80年① … 2

●「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。

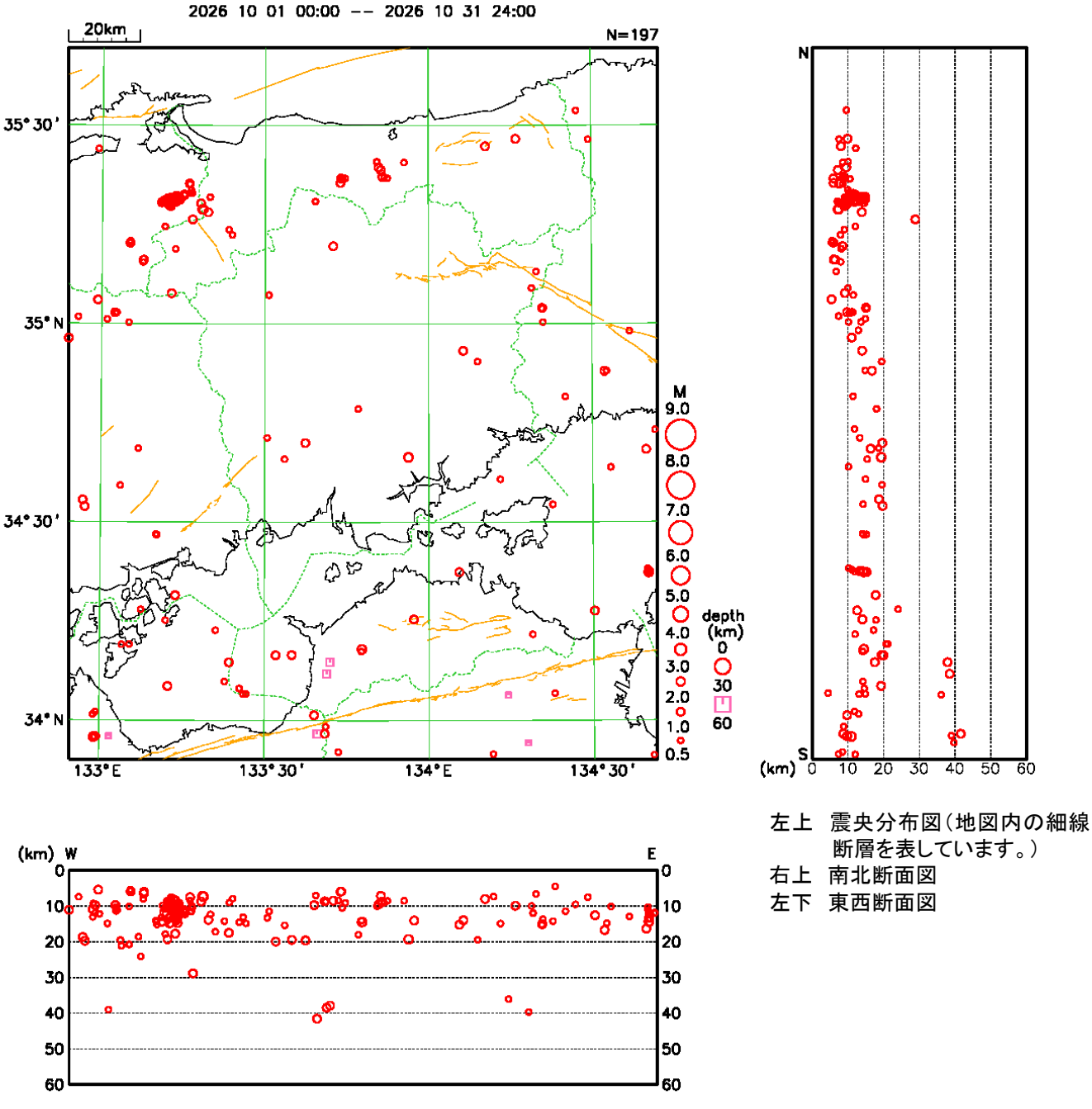
●この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

●本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(平島、小宝島)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動（10月）

震央分布図及び断面図



左上　震央分布図（地図内の細線は活断層を表しています。）
右上　南北断面図
左下　東西断面図

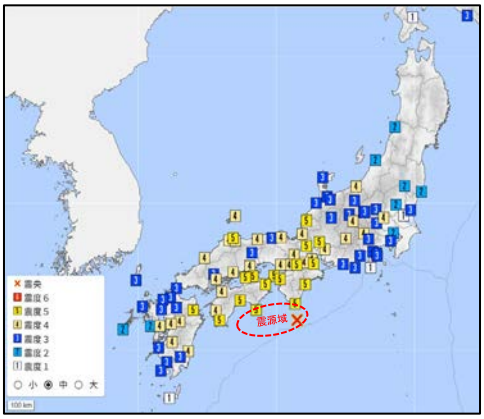
概況

・10月に岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は0回（前月:1回）でした。

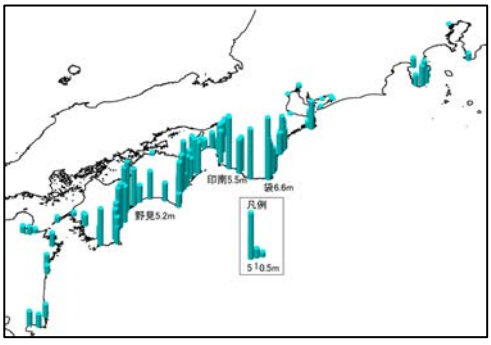
昭和南海地震から80年①

戦後間もない1946年(昭和21年)12月に発生した「昭和南海地震」から今年(2026年)で80年の節目を迎えます。今月号と11月号では、昭和南海地震について振り返るとともに、南海トラフ地震や南海トラフ地震臨時情報について解説します。

昭和南海地震は、1946年12月21日04時19分に発生した、和歌山県南方沖を震源とし、紀伊半島から四国の太平洋岸沖合の広いエリアを震源域とするマグニチュード8.0のプレート境界型の大規模地震で、歴史的な南海トラフ地震の一つです。この地震により、北海道から九州地方にかけて震度5～1(当時の震度階級)を観測し(右図)、千葉県の房総半島から九州地方の太平洋岸を津波が襲い、その高さは紀伊半島の南端にある和歌山県の袋で6.6m、三重県、徳島県、高知県の沿岸で4～6mに達しました(下左図)。これにより近畿地方から九州地方の太平洋沿岸を中心に全国で死者1,330人、住家全壊9,070棟、家屋流失1,451棟などの甚大な被害が発生しました(下右写真)。



昭和南海地震の震度分布

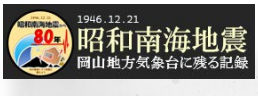


昭和南海地震津波の高さ
地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)について」


昭和南海地震の津波による被害写真(徳島県牟岐町)
徳島地方気象台ホームページ「昭和南海地震の記録」
https://www.jma-net.go.jp/tokushima/shosai/nankai/nankaitop.html

岡山測候所(当時)の調査報告によると、岡山県内は、当時岡山市内山下にあった岡山測候所での震度こそ震度4でしたが、県南の河口付近や埋め立て地、干拓地などでは揺れによる被害が大きく、県全体で死者約50人、全壊約1,200棟の被害が発生しています(下写真)。これは中国地方5県では最も大きな被害です。また、津波による被害は記録されていませんが、沿岸に津波注意報級の津波が到達し、旭川を遡上したことも報告されています。

岡山地方気象台では下写真以外にも岡山測候所による調査記録の一部と当時収集した被害写真をホームページに公開していますので、昭和南海地震を調べる際の参考にしてください。



https://www.jma-net.go.jp/okayama/jishin/showanankai.html


庄国民学校(倉敷市)


沖田神社(岡山市中区)
左は現在の写真